

コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当たり2.58人とほぼ横ばいとなっています。

2. 水痘

定点当たり1.13人とやや減少しています。安芸区4.0人となっています。

3. 腸管出血性大腸菌感染症

9件の届出がありました。いずれも東区内の同じ施設の入所者等で、O 157 (ベロ毒素産生性)が検出されています。前週届出分を合わせると、今回の集団発生の感染者は10人となっています。

4類感染症報告状況(定点把握対象分)

	報告数	定点当り	平均過去(3年間)	発生記号	疾病名	報告数	定点当り	平均過去(3年間)	発生記号
インフルエンザ	-	-	-		麻疹(注2)	-	-	-	
咽頭結膜熱	1	0.04	0.08		流行性耳下腺炎	1	0.04	0.82	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	0.71	0.82		急性出血性結膜炎	-	-	-	
感染性胃腸炎	62	2.58	2.19	➡	流行性角結膜炎	8	1.00	1.13	
水痘	27	1.13	0.76	△	急性脳炎(注3)	-	-	-	
手足口病	7	0.29	0.74		細菌性髄膜炎	-	-	0.05	
伝染性紅斑	8	0.33	0.13		無菌性髄膜炎	2	0.29	0.14	
突発性発疹	14	0.58	1.06		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.52	
百日咳	-	-	-		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	0.08	0.17						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.1.5~2の増減
微増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
横ばい	➡		殆ど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37(小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1)過去3年間の同時期平均(定点当り)

(注2)成人麻疹を除く

(注3)日本脳炎を除く

(注4)オウム病を除く

1類~4類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾病名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	9	20	東区・男性(19歳)O157、東区・男性(20歳)O157 東区・男性(19歳)O157、東区・男性(18歳)O157 東区・男性(19歳)O157、東区・男性(18歳)O157 東区・女性(18歳)O157、東区・男性(21歳)O157 東区・男性(19歳)O157
4	ツツガムシ病	1	1	男性(16歳)

4類感染症報告状況の推移(定点把握対象分)

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	球菌群溶血性咽頭炎	A群溶血性胃腸炎	感染性水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹(注1)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎(注2)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ(注3)	クラミジア肺炎	成人麻疹	
報告数	広島市	第40週	-	2	16	69	14	10	7	26	-	-	12	-	9	-	7	-	-	1	1	-	-
	第41週	-	2	19	68	35	10	2	22	-	-	6	-	7	-	10	-	-	6	3	-	-	
	第42週	-	1	17	62	27	7	8	14	-	-	2	-	1	-	8	-	-	2	-	-	-	
定点	広島市	第40週	-	0.08	0.67	2.88	0.58	0.42	0.29	1.08	-	-	0.50	-	0.38	-	0.88	-	-	0.14	0.14	-	-
当	第41週	-	0.08	0.79	2.83	1.46	0.42	0.08	0.92	-	-	0.25	-	0.29	-	1.25	-	-	0.86	0.43	-	-	
リ	第42週	-	0.04	0.71	2.58	1.13	0.29	0.33	0.58	-	-	0.08	-	0.04	-	1.00	-	-	0.29	-	-	-	
広島県	第40週	0.01	0.21	0.47	3.17	0.63	0.33	0.15	0.87	0.01	0.01	0.39	0.01	0.21	-	1.65	-	-	0.19	0.14	-	-	
	第41週	-	0.37	0.72	3.47	0.76	0.28	0.09	0.75	-	-	0.27	-	0.19	-	1.30	-	-	0.33	0.19	-	-	
全国	第40週	0.00	0.19	0.58	2.47	0.47	1.15	0.13	0.79	0.02	0.01	0.48	0.01	0.38	0.03	1.03	0.00	0.01	0.08	0.30	0.00	0.00	
	第41週	0.00	0.13	0.78	2.57	0.70	0.95	0.11	0.76	0.01	0.01	0.32	0.01	0.36	0.03	0.87	0.01	0.01	0.07	0.29	0.00	-	

(注1)成人麻疹を除く (注2)日本脳炎を除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	住所	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	9	女	中区	2003/09/09	髄液	エコーウイルス30型

(参考)腸管出血性大腸菌感染症

ペロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌による感染症である。全く症状のないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには頻回の水様便、激しい腹痛、著しい血便とともに重篤な合併症を起こし、時には死に至るものまで様々である。有症者の約6~7%は、下痢などの初発症状発現の数日から2週間以内に、溶血性尿毒症症候群(HUS)又は脳症などの重症合併症が発症する。

病原体: 腸管出血性大腸菌(ペロ毒素産生性大腸菌)。熱に弱いが、低温条件には強く水の中では長期間生存する。少量の菌の感染でも腸管内で増殖後に発症する(感染型・生体内毒素型)、食中毒菌よりも赤痢などと同様の感染症である。

潜伏期間: 4~8日

感染経路(発生時期): 主として飲食物からの経口感染である。少ない菌量(100個程度)でも感染する。夏期に多い。

症状: 症状のないものから下痢(水様便)、腹痛、血便が様々な程度で現れる。激しい腹痛と頻繁にみられる水様便及び著しい血便を認めるときは、出血性大腸炎である。さらに約6~7%に溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症などが発症する。

罹患年齢: 全年齢層(発症し、かつ重症化しやすいのは子どもと高齢者である。患者の約80%が15歳以下である。)

予防方法: 手洗いの励行、消毒(トイレ等)、食品の加熱及び良く洗うことの三点である。 二次感染にも注意が必要である。

登校基準: 有症状者の場合には、医師によって伝染のおそれがないと認められるまで出席停止とする。無症状病原体保有者の場合には出席停止の必要はなく、手洗いの励行等の一般的な予防方法の励行で二次感染は防止できる。

(文部省発行「学校において予防すべき伝染病の解説」より抜粋)

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じことがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp